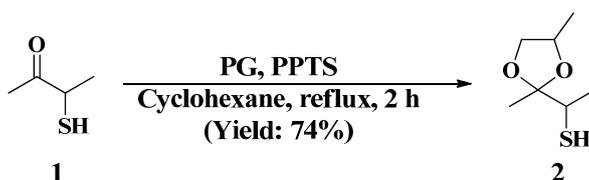


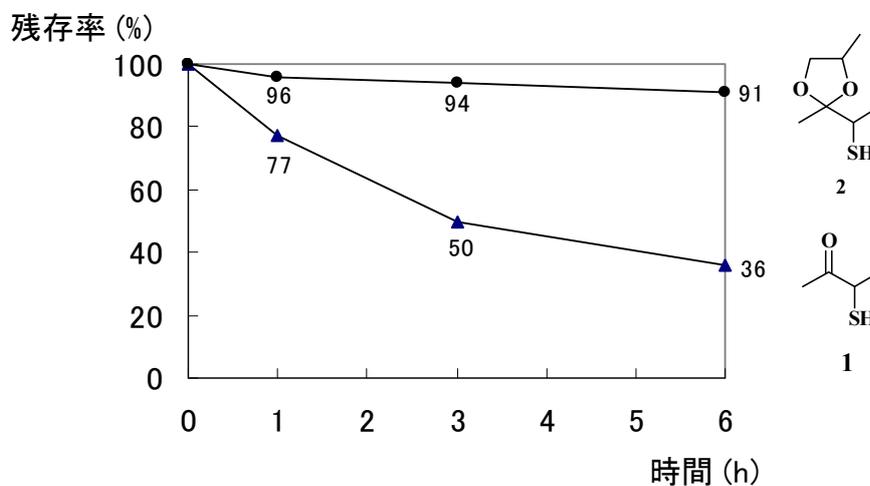
含硫環状アセタール類の香気特性

含硫化合物の多くは極微量の添加で強力な効果を発揮する優れた香料化合物として知られているが、その一方で不安定な化合物が多くしばしば香気の時劣化の原因となる。今回既存香料である肉様香気の 3-Mercapto-2-butanone (化合物 1) に対して安定化を目的に PG アセタール化を行った。予想通り化合物 2 の安定性は向上したが、香気は肉様からトロピカルフルーツ様に大きく変化するという興味深い知見も得た。



化合物 2 の合成

3-Mercapto-2-butanone (1) と 3-Mercapto-2-butanone PG acetal (2) を同一条件で虐待し、1 時間後、3 時間後、6 時間後の残存率で安定性を評価したところ、PG アセタール化によって安定性が向上したことが証明された。



化合物 1、2 を DMSO、80 °C で虐待した際の残存率

その他の研究として、構造と香気的相关を検証する目的で数種類の類縁体を合成して香気を確認したのでその結果についても報告を行った。

【発表学会】 第 58 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会 (和歌山大学)

【発表タイトル】 含硫環状アセタール類の香気特性

【発表者】 宮澤和、増田唯、大森雄一郎 (長谷川香料(株))